

かめのり大学院留学アジア奨学生

## 月次報告レポート

(2019年4月)

2019年4月から博士後期課程に進学し、現在D1とともに、かめのり大学院学アジア奨学金として、以下のように勉強および研究を進んでおり、日本の季節を満喫した。

まず、博士後期課程修了に必要な単位を確認した上で、3年間取りたい授業を決めて計画した。そして、今後の研究の構造をより詳しくデザインして、これから調査に必要な手順を準備する予定である。博論では収集したデータに加えて追加調査を収集し、分析を行う予定のため、現在、倫理審査申請の手続きをしている。倫理審査結果を待っている間では修士論文において使用していたデータを再分析し、投稿論文を執筆している。再分析と論文執筆の際、以前頂いたコメントに基づき、現在少しずつ書いたり、修正したりしている。そして、様々なことを整理している最中に気づいたのは一つのデータ及び現象でも異なる観点や角度から見れば、説明できるものや解釈できるものが少し変わっていくことである。これは研究の面白さと思うが、一つの研究の限界でも捉えられると考えられる。そこで、大きな研究は、パズルのように一つ一つの小さな研究から構成されると思われる。これからの博士後期課程における研究も同じように、博論執筆に辿り付くまでは、投稿論文をいくつか執筆しておくことで土台を作り上げるという作業が重要である。これからは少しずつ進めていきたいと思う。

また、日本の4月は桜の時期なので、一年中最も楽しみにしている時期である。毎年桜ハンティングという習慣をしている。今年は今まで行ったことがない東京の穴場お花見スポットや、まだ外国人に知られていない桜スポットを狙って、様々なお花見スポットに行ってきた。その中で青山霊園と宿河原の桜は特にきれいで感動した。他の名所と比較すると、まだローカルな雰囲気であり、落ち着いてお花見できるという特徴がある。また、代々木公園や井の頭公園などのような名所お花見スポットにも行って、より盛り上げている風景が見られた。日本のお花見というイベントは、場所によって少し雰囲気が異なっているが、共通点は自然を楽しみながら、人とコミュニケーションをすることだと思う。

